

マツアトキハマキ

春にイチイやトドマツなどの新葉を綴って食べるイモムシ（幼虫）。最大長約25mm。頭やそのすぐ後は黒から茶色。頭にはつやがある。体は濁った緑色。葉を糸で束ねて中で焦げ茶色の蛹になる。蛹は長さ約10mm。

庭のイチイやトドマツ林でまれながら多発することがある。



1. 雌成虫。1968/7. トドマツ上。

【学名】 *Archips oporanus*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) , ハマキガ科 (Tortricidae)

【分布】 北海道, 本州, 四国, 九州; ユーラシア北部。

【特徴】

イチイにはよく似たイチイオオハマキが寄生する。この幼虫は頭部がつやのない茶色で、7月に発生する点で区別できる。個体数は少ないといわれている。

トドマツにはよく似たタテスジハマキやクロタテスジハマキが発生する。これらの幼虫は体が鮮やかな緑色で、頭部が常に黒い。マツアトキハマキの頭の黒い幼虫との区別は難しい。

【生態】

イチイやトドマツの他に、カラマツ、アカマツ、スギ、ヒノキ、ヒマラヤシーダなどの針葉樹につく。

年1世代。小さな幼虫のときに葉に潜ったり、数枚の葉を糸でつづって巣を作り越冬する。幼虫は春に新葉を糸で束ねて食べる。晩春に葉を糸で束ね、その中で蛹になる。成虫は6～8月に出現する。夏に孵化した幼虫は葉を少し食べてから越冬する。

発育ステージ	～3月	4	5	6	7	8	9	10	11～	
幼虫（休眠・越冬）	+++	+++	+++	+++
幼虫（摂食・成長）		..	■■■	■■■	..	■■■	■■■	..		
蛹			..	◇◇◇◇	..					

成虫・卵				..○○	○○○	..			
------	--	--	--	------	-----	----	--	--	--

【被害と防除】

まれに多発するが、長期化した例は知られていない。食害により成長が低下したり木が枯れた記録はない。林地では普通、防除は必要とされない。

庭のイチイなどで多発した場合、被害に気づく頃はたいてい葉を糸でつづり合わせて中で蛹になっている。蛹を取り除いて駆除する。

【文献】

1984. 鈴木重孝, 駒井古実. 北海道における針葉樹を摂食する小蛾類. 北海道林業試験場報告, 22: 85-129. (分類, 形態, 生態)
1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病虫害虫獣図鑑. 223 pp. 北方林業会, 札幌. (生態, 被害, カラー写真).

北海道立林業試験場・緑化樹センター

マツアトキハマキ hamaki/matuato/
kaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/8/12.

seichu1.JPG

「写真1」上条一昭, 北海道立林業試験場, 1968.